



2021年12月19日発行

No.50

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 【URL】 <https://www.waseda-honjo.jp>

やっぱり、対面に勝るものは…

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨

10月14日(木)、1・2年生は球技大会、3年生は本庄市文化会館で芸術鑑賞教室(落語)を行いました。どちらの行事も2年ぶりの実施です。球技大会の閉会式は体育館で行いました。体育館に2学年以上を入れたのは初めてです。10月12日(火)13日(水)22日(金)の放課後にサントリーとの連携プログラムを対面で行いました。10月23日(土)には、保護者会が主催する大久保山散策ツアーを開催することができました。保護者の方が一同に会することができたのも2年ぶりです。10月24日(日)には、これも2年ぶりに本庄文化会館でブラスバンド部の第30回定期演奏会を開催することができました。私も花束を持って駆けつけました。が、昨年実施できなかった悔しさと2年ぶりに対面実施にこぎつけた喜びが観客にも伝わってきて感動的でした。

この文章を書いている10月末現在、緊急事態宣言が解除された後、少しずつ対面の日常を復活させている状況です。恐る恐るの対面行事ですが、それでもマスクの奥から生徒や教員の息づかいが伝わってきます。例えば、ブラスバンド部の演奏をオンラインで配信しても、聞かせたい曲目をお客様に届けることはできないと思います。しかし、演奏前の部員たちの緊張感・演奏中の情熱・演者と観客との一体感を感じるのはオンラインでは到底できないでしょう。また、スポットライトやミラーボールなどの照明効果が生み出す高揚感もオンラインでは難しいでしょう。

昨年の1学期早々のオンライン授業においては、オンライン授業やテレワークの良さがさかんに取り上げられました。しかし、ある程度慣れると、私たちはオンライン授業に不足を感じてくるようになってきました。それは一言で言うならば、「空気の共有感が無いこと」です。先の定期演奏会の例で述べたような臨場感や一体感がそこにはありません。Zoom上で授業を行っているとき、ビデオやマイクをオフにされてしまえば、教員は生徒が授業を聴いているのか、眠っているのか分かりません。そもそも、その場にはいないかもしれません。国際交流や講演会などのイベントもなんとかがオンラインで継続する努力がなされていますが、参加すると対面以上に疲れます。特に英語のイベントだと尚更です。

プレゼンテーション等の情報発信を教える上でも、情報科教員として対面とオンラインの違いをこの機会にまもっておくことは必要です。なぜオンラインだと疲れるのでしょうか。その理由の1つに、オンラインにおけるコミュニケーションの方が圧倒的に情報量が少ないことがあげられます。例えば以下に掲載した画像をくらべて

話をしている相手が腕組みをしていると、「なんだ、偉そうに」または「何か不満なのか?」と思うかも知れません。先生が片手をポケットにつくみながら授業していると、「先生、やる気ないな」と生徒が思うかも知れません。これはすごく大きいんだと訴えるとき、言葉だけでなく画像のように両手を広げた方がよく伝わるでしょう。オンラインだと基本的に座った状態でPCを操作するため、このようなボディランゲージがほとんど失われてしまいます。まして、マスクをしている場合は表情も見えなくなるため、目の情報しか無くなりま

このようなことを考えると、改めて対面時、言語だけでなく身振り手振り、口ぶり、表情、間まといった多様な情報を総合して会話を成り立たせていたことが分かります。そこには、豊かな「含み」のあるコミュニケーションが存在していました。

感染状況が減少している今、本当にこのままコロナ禍が収束してほしいのです。ただ、そのとき、完全にコロナ禍以前に戻すのではなく、オンラインの長所を加えて、より効率や効果の高いあり方を指すことが重要です。教育現場であれば、対面の授業を行う一方でこの2年の間に蓄積されたオンライン教材をネットにアップしておくことで、生徒の予習復習や病欠の場合に役立つことによ



う。国際交流でも、対面の相互訪問の合同にオンラインの交流を入れることにより、より濃密な交流が可能となります。

昨年のこの時期、私はこの場に「コロナ禍は学校の底力を問うている」といった内容の文章を書きました。ポストコロナにおいてもまた、コロナ禍の遺産をどう活かすのか、学校の底力が試されるのかもしれません。

チャプター四〇

稲穂祭実行委員長 小林 示 謡



私たちは稲穂祭実行委員は、委員会が発足してから約半年間、二日間の稲穂祭の成功へと導くために入念に準備を進めてきました。

今年の稲穂祭スローガンは「臆星」でした。皆が一つの星を目指すように学院生が共通の目標として、稲穂祭を成功させられることを目指す、という思いが込められています。

第四〇回稲穂祭を準備していく上で、「安心安全な開催が非常に重要な点」となりました。その理由は新型コロナウイルスによる脅威が、未だ収まっていらない状態だったからです。稲穂祭という一年で最大のイベントは千人以上の学院生に加え外部の方も数多く参加できることから、例年大いに盛り上がり、当時の段階で通常開催してしまおうと学校という立場としては社会からの厳しい目を向けられます。今年の行事もすべて中止となってしまうと、私が実行委員長に決まってから開催方法や有無についての質問が相次ぎ、学院生にとっても「稲穂祭の重要性を改めて感じました。当初私たちは感染状況の終息を予想していましたが、外部訪問と食品販売を禁止することを条件に、クラス企画もステージ発表も対面で行うものとして準備を進めてきました。しかし夏休みにかけて状況は悪化していき、夏休み中の活動時間は制限され、美術部を中心に壁面とステンドグラス制作を行っていました。参加できる人数が減り、予定通りに進まないこともありました。

この状況下では開催方法を見直さなければならなくなり、再度実行委員会と先生による協議を重ねました。そして決まったのが、前例のない対面とオンラインによるハイブリッド型開催です。対面ではメインステージと稲穂ホールでの発表、そして展示作品の鑑賞を可能としました。オンラインでは生配信機能を活用し、対面と同時に進行で参加できるよ



うな工夫を施しました。メインステージや稲穂ホールでの発表は参加できる人数を制限するためにチケット制を導入し、軽音楽部の野外ステージは一週間前にプレ稲穂祭として開催するなど、少しでも感染リスクを抑えられる案を採用しました。様々な課題がありましたが、当時の感染状況の中では二年前のような通常開催に最も近い形で開催することができたと思います。

通常開催を知っているのは現三年生だけということで、学院の伝統が途絶えてしまおうと心配もあるため、ここで少し稲穂祭の伝統を紹介させていただきます。まず「縦揺れ」の紺碧の空を「存」していきましょう。大学では「横揺れ」ですが、本庄学院では「縦揺れ」を伝統として重んじています。中夜祭・後夜祭では、メインステージ前で千人が縦に飛びながら全力で歌い、その光景は圧巻です。そしてお化け屋敷や食品販売は例年盛り上がりを見せます。ワークショップエリアでは、マムシに注意のクリアファイルやタオルなどの早稲田実用品グッズが並んで販売されます。対面での稲穂祭は、現一・二年生の想像を遥かに超えるものとなっています。



今年度は新しいことばかりを行ってききましたが、新感染者を出さずことなく第四〇回稲穂祭を無事に終えることができました。これは実行委員や先生、事務所の方々をはじめとする、クラス企画委員や生徒会執行部、配信業者の方々、保護者の皆様、そして何より、感染対策を徹底してくれた学院生の皆さんの協力があったからこそだと思います。この稲穂祭に関わってくれたすべての皆さま、特に私を支えてくれたパートナーの皆さんには心より感謝申し上げます。第四一回稲穂祭は伝統を取り戻し、新たなチャプターを作れることを祈ります。最高の稲穂祭でありがとう！



実のところ、東京は坂が多い。早稲田はすぐ近くに神田川が流れていること、かわかるように、周囲より低い場所にある。江戸時代、面影橋のあたりは砂利が採れたため砂利場と呼ばれていた。早稲田の北側には坂が並んでおり、それらの坂を登ると雑司が谷や目白台の台地に出る。関口芭蕉庵前の胸突坂、目白台運動公園脇の幽霊坂、坂の途中で道が折れ曲がる豊坂、2つの坂が途中で合流する富士見坂と日無坂、目白不動尊のある金乗院前の宿坂など、趣のある坂が並んでいる。極め付きは都電荒川線のすぐ東を通るのぞき坂である。のぞき坂は東京随一の急勾配であり、下から見上げると壁そのもの、上から見下ろすと足がすくむほどである。

学生時代の帰り道、普段は高田馬場まで歩いて山手線に乗っていた。時々、気が向くとこれらの坂を登って池袋まで歩いた。研究室で遅くまで作業をした後、夜に歩くことが多かった。坂を登った先には雑司が谷霊園がある。夜の霊園は薄気味悪いが、そこを通り抜けるのが最短経路である。霊園には小泉八雲が眠っており、異形のものたちを引き寄せそうである。幸いこの世ならざるものを目にするのはなかったが、何度過つても気持ちのよいものではない。

日中、研究に行き詰まってモヤモヤすると、気分転換がてら自転車に登りに挑戦することもあった。ほとんどは登坂できたものの、何度挑戦しても先ののぞき坂だけは無理であった。一方、自転車坂で坂を下る時の爽快感は堪らない。急な坂が多いため危険ではあるが、多少の危険を伴うが故の爽快感である。気分一新、すっきりして研究を再開したことをよく覚えていた。

何だか、依頼されたこの文章を書いているうちにモヤモヤしてきた。まだ書きかけではあるが、こんな時は坂道に限る。ちょっと大久保山の坂を登ってきます。(A)

連携プログラム

企業や行政などと一緒に様々な
連携プログラムが展開されています。

サントリー連携プログラムに参加して

3年H組 長谷川 柚希

私たちにとって、環境問題と向き合うことは必然的なことである世界になっていきます。このプロジェクトに参加することで、深刻になり続けている環境問題を少しでも改善するきっかけに、企業や社会への貢献につながるのではないかと考え参加しました。実際に参加する中で、効果的に何かを人に伝えるものを生み出すということとはとても難しかったです。最後までやり遂げる自信がありませんでしたが、挑戦するという立場で取り組むことができました。このプロジェクトで私は、水平リサイクルを知ってもらったためのキャッチコピーと分別を促すリサイクルボックスの提案をさせていただきました。今の時代に生きる中で、限りある資源をどのように使用し、どのように次世代につなげるかは私たちに託されているということを知ることができました。さらに、今後の企業の事業活動において「社会と環境」は切り離すことのできない問題であるうえ、これらの事業活動には「サステイナビリティ」、つまり「環境・社会・経済」の観点から世の中を持続可能にする」という考えが必要不可欠であることを知ることができました。

サントリーという大企業の環境問題への取り組みだけでなく、物事の捉え方を知るきっかけとなり、自らの視野を広げることができたと考えます。私たちの未来を創るのは私たちであり、サステイナビリティを実現するために私たちにできることはたくさんあると実感しました。このような貴重な経験をさせていただいたサントリーさんに感謝いたします。挑戦するには勇気が要ることですが、大きな達成感を感じることができました。このプロジェクトで経験したことを今後何かに挑戦する自信につなげたいと思います。

サステナブルな社会を目指して

1年C組 奥山 摩耶

環境問題について考えるときに一番大切なのは、自分には何ができるか、ということを探ったり、工夫したりして行動に移すことと考えます。高校生である私たちがとれる行動としては、ペットボトルリサイクルに協力することなどが第一に挙げられるでしょう。しかし、このプログラムで私たちにできることはそれだけではないと知りました。キャッチコピーを使って取り組みを世に広めることや、新しいリサイクルボックスをデザインすることで、サステナブルな社会を目指す一助になることができます。自分の創造性や、今勉強していることがこれからの社会につながっていく、ということなんだか大げさなように聞こえますが、本当のことなんだと実感することができました。これが今回の連携プログラムで得た一番大きな学びです。

今回のプログラムでは、サントリーさんから直接講義を受けるという貴重な経験をさせていただきました。その講義を受けて『ボトル』のボトル 水平リサイクル』を広める目的で考案したキャッチコピーである、「二期一会は 今日で終わり。」でキャッチコピー賞を受賞しました。ペットボトルを水平リサイクルすることで、もう一度そのペットボトルと出会うことができること、そして、中身は飲み干す、なるべくすく、キャップ・ラベルは分別するなどの少しの手間でそれが可能になることを主張しています。サステナブルな社会を目指すためにできることは何か、学院生でない人にもぜひ考えてもらいたいのです。

コロナ禍の中でこのような貴重な機会を設けていただいたことに感謝しています。サントリーさんをはじめ、今回のプログラムに携わってくださった方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。



With 『早稲田の杜ミュージアム』

本庄早稲田の杜ミュージアムでの体験

3年E組 板野 陽香

私はこの夏休みに本庄早稲田の杜ミュージアムとの連携企画に参加し、ミュージアムでの仕事の一部を体験しました。仕事は様々でしたが、特に印象に残っているのは展示品の片付けです。八月末まで開催されていた「世界をつなぐやきもの」の片付けに携わりました。学芸員の方の指導のもと、ひとつひとつの形や模様、質感、重さなどに注目して片付けを行いました。時代も場所も全く異なる何千年も前につくられた焼き物の質感や重さの違いを実際に体感できたのは、この企画の魅力の一つだと思います。また、普段ケースの中で展示されているときはなかなか見ることのできない焼き物の高台部分も十分に観察することができました。展示されているものを見るだけではわからないことを実物に触れながら学べたのは非常に貴重な経験です。今回の企画を通して、ミュージアム、本庄市、学芸員の仕事などについて沢山の興味深いお話を聞き、新たな発見の多い充実した夏休みを過ごしました。このような素敵な機会を設けてくださりありがとうございました。みなさんにもぜひ魅力溢れる本庄早稲田の杜ミュージアムに行ってみてください。

早稲田の杜ミュージアムとの連携

1年H組 下 花梨

私は、夏休みに早稲田の杜ミュージアムで行われた「こども学芸員講座」プログラムに参加しました。このプログラムは、小学生の子どもたちを対象に、土器の実測や拓本、ミュージアムツアーなどを通して考古学や郷土の歴史に興味を持つためのプログラムです。最初は少し不安がありましたが、学芸員の方々が優しくフォローをして下さったおかげで、楽しみながら伝えることが出来たと思います。子どもたちの予想外の反応に驚くこともありましたが、その素朴な疑問について一緒に考えていく中で、多くの発見がありました。物知りの子、元気がいい走り回る子、人見知りの子、たくさんの子がいる中で、全員に「伝える」難しさ、そして面白さを実感することが出来たと思います。将来の可能性を広げる貴重な機会でありがとうございました。



球技大会を振り返って

心から球技大会ができてよかった。

3年G組 羽鳥 寧々

「心から球技大会ができてよかった。」これは、球技大会が終了した今、私が率直に抱いた感想です。

夏休みに体育祭の中止が発表され、私は悲しみに浸る間もないまま、球技大会があらうことを信じて準備に取り掛かってきました。先生と案を相談するために、何度、体育科教員室を訪れたのか計り知れませんが、(笑)コロナ対策は大丈夫か、どのようなルールでやるのかなどたくさん先生と話し合いました。そして、やっと球技大会が無事に終わり、ホッとしています。

ところで、逆にみなさんに聞きます。「球技大会はどうでしたか?」「球技大会: バスケ、ソフトボールなどの球技の大会で...」と辞書のように定まった答えはありません。皆さんは様々な思いを感じたことでしょうか。

今年の球技大会は、男子はソフトボール、サッカーに半分ずつ分かれて試合を行い、女子は全員がバスケ、ソフトボール、ドッジボールの二競技に参加しました。そして、昨年よりも時間が少ないため、二日間ともみっちり試合をしました。だからこそ、今年は全員が全力で球技大会に取り組めたと思います。ほとんどの人が部活を引退しているにも関わらず、皆さんとても活気に溢れていました。女子ではバスケ、ソフトボールで延長戦にまでもなりました。試合結果を見ても僅差が多かったですが、私がみなさんのプレーや表情を見てもそう感じ取れる球技大会でした。きつともう高校生活で、クラスメイトとここまで本気になる機会はないでしょう。大切な思い出になったと思います。

最後に、審判をしてくれたサッカー部、野球部、女子バスケ、ソフトボール部、素敵な写真をとってくれた保護者の皆様。そして運営してくれた実行委員。ここまでみなさんの助けがなければ球技大会を実施することはできませんでした。本当にありがとうございました!

2年G組 深山 貴代

球技大会の意義とはなにか。体育祭のように全力でコスプレをして、クラスリレーをしたり、打ち上げをしたり、青春らしいことはありません。稲穂祭のように夏休みを返上し、何ヶ月も前から放課後残り、受験生の皆さんが通いたいなどと思える楽しそうな学院生活を見せる必要のあるイベントでもないのです。

3年生が修学旅行に行っている間、教員が足りず授業が成り立たないからという理由で行われる「プチ行事」というのが例年の球技大会の印象ではなかったでしょうか。

しかし、今年は訳が違いました。新型コロナウイルス感染拡大の懸念があるため、体育祭は中止となりました。稲穂祭も対面の発表や観覧を限定しての開催となり、クラス企画は全て動画によるものとなってしまいました。

周りの高校では体育祭も文化祭も打ち上げも全て行われているのがイン스타그램のストーリーで、投稿でテックトークで、流れてくる中、私たちは毎日課題や定期テストに追われていました。1、2年生はこんな学院生活を思い描いて入学してきたのでしょうか。

クラスの団結力を強める機会というのがこのように無くなった2021年度そんな中やっと思いで開催できたのが球技大会でした。例年とは重みが違っていました。開催を許可して下さった先生方に迷惑をかけないよう、感染対策を徹底しながらの開催となりました。

閉会式は体育館で行いました。体育館に1、2年生が全員入ったのは今年初めてでした。例年の球技大会を経験したことのない2学年が集まって行われた球技大会は3年生の先輩方の知る、伝統的なものではなくなりました。私もそれまでも私たちが楽しみにしていた行事を企画できた気がします。

コロナ禍においてできないことや制限されていることが多いとは思いますがそれを嘆くより、できることを向け、感謝の気持ちを忘れずに過ごしたいと再確認できた行事でした。開催を許可して下さった先生方及び、日頃から感染対策を行っていた学院生の皆さんありがとうございました。



各種プログラム報告

教育プログラム報告

河川研究班の活動

6月1日(水)

藤田小との第一回合同河川調査を小山川で実施しました。手長エビを採取することができ、初めてその棲息が確認できました。



7月7日(水)

藤田小で授業を行いました。オイラーの多面体定理を説明した後、ストローで正四面体と正六面体を作り、石鹸膜がどう張るかを実験しました。後でその理由を考えてもらいました。



7月14日(水)

藤田小での第2回授業を行いました。前半は川に棲むプランクトンと食物連鎖を説明し、後半は実顕顕微鏡を使い、プランクトンの観察を行いました。

8月5日(木)

新幹線本庄早稲田駅近くの調整池における本庄市による環境影響調査の様子を見学しました。外来種だらけになっているのではないかと想像しましたが、意外にもバスやブルーギルは棲息していませんでした。

10月20日(水)

藤田小との第二回合同河川調査を行いました。この日は元小山川で実施しました。ウグイが初めて確認されました。ウグイは、河川環境の悪い元小山川で、水質改善の指標として「ウグイの棲める川にしよう」と、活動の目標にしてきた魚です。



10月27日(水)

藤田小で第3回目の授業を行いました。この日は、前半は児童による調査報告、後半は学院生が調査研究をどう行うべきか、について話しました。この日が3年生の最後の参加となるため、最後に3年生が児童に向けてメッセージを述べました。



国際交流・共同研究

フィリピンとの共同研究

フィリピン Philippine Science High School (EVIC) との水質に関する共同研究に2年中田真生、1年小津加奈が取り組み、その成果を11月に Japan Super Science Fair (JSSF) 2021 で発表しました。



タイとの共同研究

タイの Princess Chulabhorn Science High School Trang との外来種問題(特にホテイアオイ)についての共同研究に、2年中島真理子・木村友香、1年宮田苑佳・山口真優香が取り組み、その成果を11月の JSSF で発表しました。



シンガポールNJCとの交流プログラム

シンガポールの協定校である National Junior College との間で、現在共同研究「未来の農業の姿～家庭菜園を切り口に～」が進行中です。3年羽鳥寧々、2年本橋清香、1年井上夏希が参加しています。また、留学中の2年進藤千歳がフランスから参加しています。

タイMWITとの交流プログラム

タイの Mahidol Wittayanusorn School と12月に3日間の交流シンポジウムを開催します。



国際シンポジウム Asia Academic & Cultural Sessions 2021 (AACS) 開催に向けて

昨年実施した、AACS を今年度は規模を拡大する形で1月末～2月に実施する予定で、現在準備を進めています。

様々な連携プログラム

サントリーとの連携プログラム

本庄高等学院は今年度、株式会社サントリーとの共同プロジェクト『「ボトルTOボトル」水平リサイクルを考える ～身近な事例を通してSDGsと向き合う～』を行うこととなりました。水平リサイクルを通して特にプラスチックに関わる環境問題を考えてもらうきっかけにするとともに、本庄学院に設置する「飽きられずに長く使ってもらえるようリサイクルボックス案」と「リサイクルしたくなるようなキャッチコピー案」のコンテストがこのプログラムの内容です。

10月12日(火)の第1回目は本庄学院2教員による、心に残るキャッチコピーと使いたくなる道具のデザインについての講義を行いました。10月13日(水)の第2回目は、サントリー側から環境問題に対するサントリーの取組についての講義を行いました。翌週10月22日(金)は課題の発表を行いました。サントリー、早稲田大学、リサーチパーク等からのお客様が見守る中、生徒達の斬新かつユニークなアイデアの発表が行われました。以下は表彰を受けた生徒です。

リサイクルボックス賞:3年 長谷川柚希
キャッチコピー賞:1年 奥山摩耶
サントリー特別賞(やってみたい賞):3年 橋本瑠衣
早稲田大学久遠の理想賞:3年 羽鳥寧々



ほんじょうFMとの連携プログラム

ほんじょうFMより打診があり、毎週木曜日17時～18時の枠を数回学院生が構成・DJを担当することとなりました。今後については、その様子を見て、再検討することとなります。



高等学院との連携プログラム

早稲田大学における附属2校である高等学院と本庄高等学院生徒間での連携プログラム WASS(Waseda Affiliated Schools Summit)が昨年より開始されています。昨年度は、コロナ禍の中、オンラインで発表会を行いました。本年度も現在活動が継続されており、1月～2月に早稲田大学で対面で、成果発表会を行う予定です。

また、10月10日(日)、高等学院の環境プロジェクトチーム11名(中等部1名含む)と本庄学院の河川研究班5名・WASS4名とのコラボレーションを行いました。調査研究面でのコラボレーションは初めてです。様々な、レベルで両学院の連携活動が活発になることを期待しております。



本庄市民総合大学ジュニアコース

7月4日(日)、10日(土)、子供科学教室を開催しました。このプログラムは、本庄市が生涯教育を目的に開催している、市民総合大学のジュニアコースの講座です。

7月4日は、「100万年前の虫を探そう～琥珀を磨く～」というテーマで行いました。講師を学院生が務めました。マダガスカル産のコバルを磨き、中に入っている虫を実顕顕微鏡で観察しました。一番多いのがアリや蚊ですが、小さな甲虫やハエ、ダニも見つかりました。

7月10日は、早稲田リサーチパークで実験教室を開催しました。テーマは「実験・観察で空気の力を体験しよう」です。ペットボトルと入浴剤を使ったロケットなど、2時間半で盛りだくさんの内容でした。



小学校プログラム

2018年度より本庄プロジェクト推進室との連携により、本庄市内小学校で学院生が授業の講師を務める「小学校プログラム」を実施しています。昨年度はコロナ禍でまったく実施できませんでした。今年度は11月中旬で秋平小(3年松永明日香、2年木村夏実・伊藤凜音)・東小(2年木村夏実・伊藤凜音、1年寺村夏蓮・白倉千賀・諏訪瑞保・小林隼士・堀ノ上碧人)西小における授業が実施済みです。12月に中央小・南小での実施が予定されています。



本庄早稲田の杜ミュージアムとの連携

2020年10月にオープンした早稲田大学本庄早稲田の杜ミュージアムとの連携プログラムを開始しました。将来「博物館で働きたい」「教員になりたい」「博物館の仕事」や「人に何かを伝えたり教えたりする仕事」に関心がある学院生が、小学生をターゲットとしたミニ企画展と勾玉づくり・土器の拓本づくりなどのワークショップ、講座を開催します。

そのサポートや学芸員のお手伝いをしながら、将来について考える機会とすることを目的としています。



早稲田大学人間科学部との人間工学をテーマとした探究活動

【人間科学部本庄高等学院連携プロジェクト】「子ども達の頭を守れ! パークガーディアン競技大会」第1回人間工学測定体験会を行いました! 投稿日:2021年11月07日

11/5(金)放課後に、人間科学部の加藤麻樹教授、村野良太助手をお迎えし、人間工学測定体験会を行いました。

センサーを内蔵した幼児の頭部の模型を用いた地面の衝撃の測定、自分の筋力がどれくらい使われているのかという筋電測定、歩く姿勢を詳細に計測し靴による違いを検証するということを実際に体験しました。

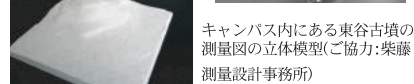
研究で使われている本格的な装置を使って実際に測定を行うことで、人間工学を身近に感じる貴重な機会となりました。

12月には実際に衝撃を吸収するような素材を学院生が考案するコンテストを行う予定です。



■早稲田大学考古学資料室・文学部・本庄市・高エネルギー加速器研究機構と連携した古墳の物理探査活動「墳Q」

「墳Q」活動と題して学校の周りがある古墳を地中探査レーダーや宇宙線(宇宙から降り注ぐ自然放射線)を用いて透視しようというプロジェクトを実施しています。その他、考古学資料室や本庄市の協力の下、文献調査・古墳巡検を、高エネルギー加速器研究機構・総合大学院大学の研究者と共に宇宙線透視装置OSECHIの開発などを行っています。



6月6日(日)に日本地球惑星科学連合2021年大会(JpGU)高校生によるポスター発表にて、「宇宙線ミュオンを利用した古墳透視プロジェクト」という題名で、1年生1名、2年生5名、3年生3名でオンライン発表を行いました。

「高校生離れした高度な内容」「グループによる複合的な研究構造」が評価され、佳作として選ばれました。

11月13日(土)、14日(日)に、文学部の方々の協力の下、本庄市にある秋山庚申塚古墳のレーダー探査を実施しました。



しかし待望のサバティカルは、どつぱりコロナ禍にはまることとなった。しよげていたところ、本の電話が。映像作品について論文を書かせていただいたことで知り合い、以来、時々仕事をふってくださる映画監督演出家の奥秀太郎氏から、「このたび舞台の新作を手がけるので、パンフレット制作等を手伝わないか?」という依頼であった。ちょうどライプハウスや劇場でクラスターが発生し、舞台は次々に上映中止の憂き目にあうというニュースを目にしていたので、私などで役に立てることがあれば……という思いでお引き受けた。

企画内容を聞いて驚いた。アニメで有名な「攻殻機動隊」をお能の新作物として上演する、というのである。ペルはらやガラスの仮面が能になった話は聞いたが、SFアクションものの「攻殻」ははたしてお能になるのか? しかも、VRで演出する……狐につままれた思いで、パンフレットに掲載する文を書くための取材を開始した。

取材は楽しかった。人間国宝の亀井広忠氏をはじめとする観世流喜多流の今をとぎめく能楽師の方々、攻殻シリーズ他、著名なアニメ作品の数々を手がける脚本家・小説家の藤咲淳一氏、古典芸能でもサバカルでも、文化の最先端を牽引する諸氏は、放つオーラにも、発する言葉にも、圧倒的な輝きと重みがあった。数十分お話を聞いただけに、三分分のエネルギーを消耗したように感じた。能楽師の方々が語られていた能楽の危機——コロナ禍ですますす加速している——については、次世代の文化主体を育成する国語教師として、自分も何かをしたいと強く思った。

また、演出の奥氏、VR技術担当の東京大学の稲見昌彦氏、映像技術担当の明治大学の福地健太郎氏のお話も大変興味深かった。稲見氏はVR研究の第一人者で、「攻殻」に登場する「光学迷彩」を作って世界を驚かせた方。今回の演出に使われるのもこの技術の応用である。福地氏は、演出の奥氏と中学・高校の同級生、お二人でこれまで、3D映像を用いた舞台演出として、2.5次元舞台や「3D能」など数々の作品を手がけてきた。今回、舞台映像技術を扱う新会社を設立なさったというこの三人が挑戦したのは、世界初の演劇におけるVR演出。しかも、メガネやゴーグルなしに、肉眼で観られるVRである。インタビュでは、最先端の技術を扱い「これまでに誰も観たことのないものを作ってしまう方々特有の知性と創造性」をまのあたりにし、ただただ圧倒された。敬服する一方で、お互いの持つ知識や技術をぶつけ合い、夜中までかかってわいわいがやがや何かを創るお姿が少年のように若々しく楽しそうで、稲穂祭などで見かける学院生達の姿が懐かしく思い出された。

パンフレットはどうかこうにか完成し、実際の舞台では、拙文を下野紘氏(「鬼滅の刃」の善逸役が芸劇ブレイハウスや博多座で朗読なさるのを聴くという、国語教師として至福としかいいようのない時を過ごさせていただくことができた。舞台「VR能 攻殻機動隊」は講演毎に四度拝見したが、VR演出がびつたりとはまり、観る者の感動を観るたびに掻き立てる、素晴らしい完成度である。アメリカにこそ行けなかったが、日本の伝統芸能の新たな可能性を間近に感じたサバティカルとなった。僥倖この上ない経験させていただけただけに、研究休暇をくださった早稲田にも、奥秀太郎氏にも、あらためて感謝を申し上げる次第である。



研究対象としている有島武郎について学びを深めようと、彼が留学したアメリカ東海岸へ赴く計画を立てていた。ハヴァフォード大学・ハーバード大学・議会図書館……語学の面で不安は隠せないものの、行けばなんとかなるだろうと聞き直り、「有島の研究をしているのにアメリカを知らない」「負い目を少しでも払拭したい」と思っている。



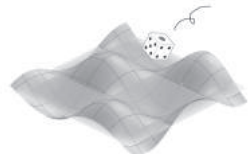
「VR能 攻殻機動隊」

上牧瀬 香

魅力的な先生の紹介

#バトン#2

峰 真如



2020年度は特別研究期間の制度を利用して研究を進める毎日であった。これまでに興味がありながら進めることができなかった統計学について深められるとよいなと思っていたのだが、それと同時にこれまでの私の研究活動理論物理学につながる内容で研究を進められるとよいなとも考えていた。

大学・大学院時代に理論物理学に魅せられ、研究室仲間と一般相対性理論の勉強会を行っていた。一般相対性理論は物理学における重力の理論の一つであり、時空を弾性体(伸び縮みするゴムなど)のように扱うものであるが、その際に数学的道具として使われていたのが微分幾何学であった。微分幾何学とは、語弊を恐れずに言えば、図形の性質を微積分のアプリオリで調べる学問である。微分幾何学を用いることで物質の影響により時空が影響を受ける(変形する)効果をうまく記述できる。

さて、そのことと統計学を同時に研究できないか?と考えていたところ、面白い情報が目に飛び込んだ。「情報幾何学」である。調べてみると、確率分布関数全体からなる集合の幾何学的性質を扱うということである。微分幾何学で記述されるようである。ちょうど私の興味に一致する分野が見つかったので、この「情報幾何学」を深めることを2020年度のテーマとした。

久しぶりに、緊張しながら研究発表する学生の気持ちを味わったり、同じ本を何度も何度も読んだり、ということを行った。それらはとても新鮮な体験であった。いろいろ調べる中で、幾何学的構造を与える接続係数の具体的な表式について、その計算を明確な形で整理することができた。これを宮田先生と共著で本庄学院研究紀要にまとめることもできた。また、本来の専門である量子論にも関連するコメントもできたので一定の収穫があったと思う。そんなことで、2020年度は大変恵まれた一年であった...と言いたいところだが、コロナ禍で様々な苦しさとともに過ごした一年でもあった。仲間とも十分なコミュニケーションが取れず不安な思いもあった。学院生たちもそれぞれ、大変な一年であったと思う。今は、これまでの経験を大切に、ただただ一歩ずつ丁寧に前進できるとよいなと思う。

生徒達の活躍

◆ 硬式野球部

◆ 秋季大会

春季大会に引き続き、県ベスト16の成績となりました。無観客による試合でしたが、さまざまな形で応援をいただきました。ありがとうございました。

北部地区予選

1回戦 9月7日(火) 対鴻巣高校 12-0 於上尾市民球場
代表決定戦 9月11日(土) 対桶川高校 7-4 於上尾市民球場県大会
1回戦 9月19日(日) 対西武文理高校 8-3 於レヂェンシャルスタジアム大宮
2回戦 9月21日(火) 対宮代高校 13-2(8回コールド) 於県営大宮球場
3回戦 9月23日(木) 対浦和実業高校 4-8 於県営大宮球場

◆ 県北8校リーグ秋季トーナメント

決勝戦は、秋季大会で県ベスト16どうしの対戦となりました。本学院は残念ながら準優勝という結果となりました。
1回戦 10月30日(土) 对本庄第一高校 11-8
準決勝 11月3日(水) 対寄居城北高校 12-0(5回コールド)
決勝戦 11月6日(土) 对本庄東高校 3-5
いずれもケイアイスタジアムにて。

◆ ラグビー部

国体県大会

1回戦 5月29日(土) 草加38(17/21) - 5(5-0) 早大本庄
第8回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会埼玉県予選
1次トーナメント(Fブロック) 6月19日(土)
・ 1回戦 早大本庄29(19/10) - 0(0/0) 松山
・ 決 勝 熊谷 12(12/0) - 0(0/0) 早大本庄
第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選
2回戦 9月23日(祝) 草加17(7/10) - 14(0/14) 早大本庄

◆ 昨年の全国大会予選で敗れて以来、公式戦で連敗が続いていた草加高校との一戦は、気迫のこもったプレーでこれまでになく相手を追い詰め、試合終了間際まで14対14の同点でしたが、残り30秒でペナルティキックを決められ、惜しくも17対14で敗れました。ノーサイドの笛が鳴るまで死力を尽くして闘った、主将の鈴木大介さん(3B)をはじめとするすべての選手、マネージャー達を讃えたいと思います。また、応援部の皆様には、今年もまた、心のこもった激励をいただき、どうも有難うございました。12月中旬からは丸橋怜央さん(2C)率いる新チームの新人戦が始まります。あらためて応援よろしくお願い致します。皆さん、ラグビー部いつでも入部OKですので、少しでも興味がある人は是非、グラウンドへ見学に来て下さい!! 部員一同お待ちしております!



◆ 硬式テニス部(男女)

・ 関東予選大会埼玉県北部地区予選(4月16日~19日、24日県大会出場分)
男子シングルス 優勝 野田一成、3位 神谷優希、4位 三森康平、5位 湯原悠登 10位 戸倉甲陽 12位 田中良伸
・ 埼玉県新人大大会 北部地区予選(9月17日・18日、県大会出場分)
男子シングルス 優勝 野田一成、準優勝 神谷優希、9位 大西 諒、14位 田中良伸、22位 藤田拓巳、23位 是沢陽平
女子シングルス 2位 吉新なつき、12位 高橋希世子、17位 下 花梨
男子ダブルス 優勝 神谷・野田、9位 大西・藤田、10位 田中・西村
女子ダブルス 2位 吉新・高橋、9位 下・米谷
・ 埼玉県高等学校新人大大会 個人 (10月2日~4日)
男子シングルス ベスト32 野田一成、ベスト64 神谷優希、ベスト64 大西 諒
女子シングルス ベスト32 吉新なつき、ベスト64 下 花梨
男子ダブルス ベスト32 神谷・野田
女子ダブルス ベスト32 吉新・高橋
・ 埼玉県高等学校新人大大会 団体 (11月3日・6日)
男子 5位 女子 ベスト16



◆ 女子バスケットボール部

県北選手権大会

8月17日 会場:大妻嵐山 vs 秩父 ○ 92-54
8月19日 会場:秩父文休 vs 本庄東 ○ 90-75
8月20日 会場:秩父文休 vs 寄居城北 ○ 82-47
※ 大会は8月20日で中断となりました。

新人大大会北部支部予選

11月14日 会場:小川 vs 熊谷女子 ○ 84-62
11月20日 会場:熊谷農業 vs 正智深谷×56-92
県大会出場決定 これからも応援よろしくをお願いします!

◆ ソフトテニス部(女子)

2021年度 埼玉県高校ソフトテニスランキング
第6位 岡本百葉(3F)・今泉菜々(3G)

◆ 自転車部

2021年6月7日(月)

関東高等学校自転車競技大会
男子個人ロード・レース(72km)
群馬県みなかみ町群馬サイクルスポーツセンター
完走(30位) 細谷幹大(1H)

2021年11月14日(日)

埼玉車連第16回加須タイム・トライアル・ロードレース
利根川河川敷堤防強化事業工事用道路(加須市)
高校生(登録者)5位 28分42秒95 細谷幹大(1H)



◆ 陸上競技部

インターハイでは3年生の高田和さんが6月の北関東大会で入賞、8月福井での全国大会に出場しました。コロナ禍でチームメイトは応援に行けませんが、そんな中でも高田さんはしっかりと戦い抜いていました。またチームメイトも応援メッセージやオンライン配信での観戦等、離れていてもチームで臨んだインターハイとなりました。

夏の国体予選会では、1,2年生も大いに活躍し、その勢いを持って秋の新人選に臨みました。結果、17年35大会ぶりに埼玉県北部地区での男子総合優勝を果たし、県大会では本庄高等学院史上初の男子総合優勝を勝ち取りました。陸上競技は個人競技ですが、『総合』は全競技の結果をまとめて点数化して競われるので、まさしくチームで掴んだ県チャンピオンの座となりました。また県大会を受けて関東大会にも個人種目ではこれまでで最多となる人数が進み、1年生二人が入賞を果たしました。

11月の高校駅伝埼玉県予選会が創部以来初となる関東大会進出を狙い出場しました。出場権のある6位には及ばず届きませんでしたが、本庄学院最高タイ記録となる8位入賞を果たし、女子も目標としていた順位をしっかりとクリアし高校駅伝を終えました。1,2年生がしっかりと力をつけてきているので、来シーズンも素晴らしい結果が得られるよう、冬季の練習もチームで支え合って頑張っています。

主な戦績(県大会以上)

関東高校陸上競技選手権大会(6/18~21)

男子200m 第6位 高田和(3) 21"82

全国高校陸上競技選手権大会(7/28~8/1)

男子200m 予選6組(第5位) 高田和(3) 21"76

国体予選会埼玉県予選会(8/9)

少年B男子100m 第4位 滝澤悠貴 11"05

少年A男子300m 第4位 森田陽樹 34"82

少年B男子3000m 優勝 倉本倫太郎 8' 54"14

少年B男子3000m 第4位 佐藤広人(1) 9' 20"33

埼玉県高校新人陸上競技選手権大会(9/21~23)

男子100m 第6位 黛直汰朗(2) 11"15

男子200m 第4位 森田陽樹(2) 21"78

男子400m 優勝 森田陽樹(2) 48"74

男子1500m 第5位 倉本倫太郎(1) 4'01"28

男子5000m 第4位 倉本倫太郎(1) 15' 29"25

男子3000m障害 第4位 山田遥大(2) 9' 42"99

男子3000m障害 第5位 佐藤広人(1) 9' 44"24

男子5000m競歩 第8位 篠原本(2) 30' 48"51

男子走高跳 第7位 播昌樹(1) 1m80

男子走幅跳 第5位 滝澤悠貴(1) 6m51

男子走幅跳 第6位 齊藤拓巳(2) 6m42

男子4x100mリレー 第4位

早大本庄(滝澤一黛一森一森田) 41"96

男子4x400mリレー 第4位

早大本庄(竹森一森田一森一阿久澤) 3' 22"26

男子トラック 優勝 早大本庄

男子総合 優勝 早大本庄

女子100m 第5位 鈴木彩夏(1) 12"76

女子5000mW 第8位 臼倉千賀(1) 32' 03"48

女子走高跳 第3位 川瀬仁香(1) 1m55

女子やり投げ 第4位 柴田莉奈(1) 35m90

関東高校選抜新人陸上競技選手権大会(10/24~25)

男子1500m 第7位 倉本倫太郎(1) 4'02"11

男子5000m 第22位 倉本倫太郎(1) 15' 34"16

男子3000m障害 予選12位 山田遥大(2) 10' 13"62

男子3000m障害 予選6位 佐藤広人(1) 9' 46"97

女子100m 第8位 鈴木彩夏(1) 12"70

女子走高跳 第22位 川瀬仁香(1) 1m50

JOC U18 陸上競技大会(10/23)

男子300m 予選組4位 森田 陽樹(2) 34"67

全国高等学校駅伝競走大会埼玉県予選会

男子の部 8位 早大本庄 2'15"55"

(服部(3)一浦野(2)一山田(2)一佐藤(1)一吉岡(1)一酒巻(2)一倉本(1))

女子の部 22位 早大本庄 1'26"51"

(水野(3)一永松(2)一新楽(1)一伊藤(1)一吉田(1))



◆ ワンダーフォーゲル部

日帰りでの定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、部員18名で活動しています。例年、定例山行と秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび1泊2日とし、夏山合宿は北アルプスに縦走登山に出かけます。日帰りでも5~6時間は歩く健脚コースを設定しています。今年度も2度の合宿を実施できませんでしたが、関東近郊の日帰り登山に出かけました。

今年度実施した山行は、次の通りです。途中からの入部も可能です。仲間と山を歩きながら、気分をリフレッシュしてみませんか?

5/3 定例1回 赤城山(長七郎山・地藏岳)
8/2 定例2回 谷川岳(天神尾根)
10/24 定例3回 鐘撞堂山・陣見山
11/3 定例4回 鼻曲山



◇ 茶道部

7月5日(月)

本庄早稲田リサーチパーク内にある早稲田大学の大学院、環境エネルギー研究科の学生8名が演習授業のために本庄学院を訪れました。海外からの留学生が多いため、日本文化理解のため、茶道部で歓迎お茶会を開催しました。

7月11日(日)

本庄市が生涯教育を目的として開催している市民総合大学のジュニアコース講座として、子供お茶会「茶道教室?茶道の基本を教えます?」を宥勝寺で開催しました。蹲(つくばい)から体験してもらいました。3種類のおじぎにチャレンジしてもらいました。お点前した後、一人一人に部員が付き、お点前体験をしてもらいました。



◇ 囲碁将棋部

*8月2日(月)~8月4日(水)、和歌山県那智勝浦町体育文化会館、第45回全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦
主将:1年吉田泰喜、三将:3年越後美波 (16位)

*11月14日(日)、県立浦和高校、第37回関東地区高等学校囲碁選手権埼玉県予選
1年吉田泰喜 19路盤男子第2位となり(1月16日(日)に横浜市で開催される関東大会の出場決定)



◇ 政治経済部

第15回 全日本高校模擬国連大会(11/13-14) 出場

土井友梨香(2C)・三津山莞太(1C)

今年の議題は「核軍縮」で、土井・三津山はオンライン議場にてキューバ大使を務めました。

◇ SSCクラブ

工藤詩大(3G)

○SecHack365 優秀修了

NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)主催の若手セキュリティノバーター育成プログラム「SecHack365」を2020年度に優秀修了。

○セキュリティ・キャン普全国大会2021 オンライン 修了
IPA(独立行政法人情報処理推進機構)と一般社団法人セキュリティ・キャン普協議会が中心となって行っているセキュリティ・キャン普事業のメインイベント「セキュリティ・キャン普全国大会2021オンライン」を修了。

○STAGE0 競技プログラミング部門 敢闘賞

日本最大の高校eスポーツの祭典『STAGE0(ステージゼロ)』が実施する高校生向けプログラミングコンテストで2021年に敢闘賞を受賞。

○パソコン甲子園2021 本選出場 + 審査員特別アイデア賞
会津大学等によって主催・運営される全国の高校生を対象とした情報処理技術のコンテスト「パソコン甲子園2021」のプログラミング部門にて、予選を突破し、本選に出場。本選では、審査委員特別アイデア賞を受賞。

◇ 個人の活躍

○パソコン甲子園2021 本選出場

連見 優太(2B)

会津大学等によって主催・運営される全国の高校生を対象とした情報処理技術のコンテスト「パソコン甲子園2021」のプログラミング部門にて、予選を突破し、本選に出場。

○射撃

牧 美羽香(1D)

・大会名=全国通信ジュニアビームライフル射撃大会

・開催日=2021年4月30日

・種目・階級等=10mBP 60WJ

・成績・記録=535点 第8位